

中宮中だより

No. 10

令和2年(2020年)1月7日

枚方市立中宮中学校

校長 鶴島 茂樹

＜新年、あけましておめでとうございます。＞

さて、今年には東京オリンピック・パラリンピックの年です。その話題から・・・パラリンピックの走り幅跳びで2連覇中のマルクス・レーム(ドイツ)という選手がいます。彼の持つパラ陸上の世界記録8m48は、前回のリオデジャネイロ五輪の優勝記録8m38を上回っています。

レーム選手は14歳の時、水上競技のウエークボードの練習中、事故で右足の膝から下を失いました。義足となり、走り幅跳びに転向し、努力で12年ロンドンパラの頂点に上り詰めたのです。その彼は今、いつの日か五輪選手と一緒に戦いたいという夢を持っています。オリンピックに出場して戦うことを、強く希望しています。

実際、南アフリカの両足義足の選手が、12年ロンドン・五輪男子400mに出場して、準決勝に進出した例もあり、レーム選手も後に続こうとしています。しかし、義足の反発力が有利に働く可能性があるという理由で、現在のところ東京オリンピックへの出場は認められていません。

同じような思いを持った選手は彼だけではありません。全米選手権男子400mで5位に入賞した両足義足のブレークリーパー選手も、東京五輪出場を熱望しています。

オリンピックとパラリンピック・・・記録はもちろん日程もきっちり分かれています。先のレーム選手のような希望があるのなら、記録の比較はむづかしい面があるにせよ、少なくとも共に競技を行ってもいいのではないのでしょうか。

もっと大胆に言うなら、わざわざオリンピック・パラリンピックなどと名称や日程をきちんと分けてしまわずに、同じ日程の中で「オリンピック」として共に実施することは不可能なのでしょうか。

記録や勝敗は別にしても、競技によっては、障がいのある人もない人も共に走ったり跳んだり泳いだりすることがあってもいいのでは?・・・そんな議論があってもいいかな、と思います。

(前半部は毎日新聞の記事を資料としました。)

いよいよ、1年間の締めくくりの3学期が始まりました。3年生は義務教育最後の学期です。これまでの振り返りを土台に、悔いの残らないよう、一日一日を大切にして、未来の自分へとつなげていきましょう。

ジャパンパラ大会で優勝したレーム選手

